



理学療法を対象とした疾患に対する運動の効果検証

理学療法学科

金村 尚彦 教授

【研究分野】 理学療法学、リハビリテーション医学

【キーワード】 運動器、中枢・末梢神経の神経可塑性、加齢

【U R L】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=164kane>



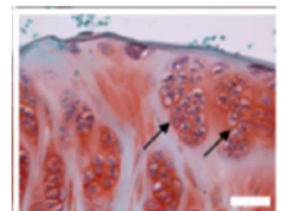
研究概要

運動器疾患や廃用、末梢神経や脊髄神経などの神経可塑性に関する運動介入がどのような効果をもたらすのか、組織学や分子生物学的手法による分析と、バイオメカニクス的手法により理学療法の効果を検証しています。

研究紹介

1. 異常関節運動が関節内環境へ与える影響に関する研究

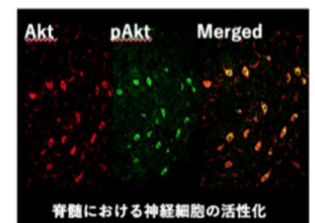
変形性膝関節症や靭帯損傷などにおける異常な関節運動が関節内組織や神経機能にどのような影響を与えるのかについての研究を行っています。



変形性関節症モデルラットの関節軟骨像

2. 末梢神経損傷後の理学療法効果に関する研究

運動介入により末梢神経損傷後や脊髄神経などにどのように活性化されるか、神経機能回復に着目した研究を行っています。



脊髄における神経細胞の活性化

3. 加齢における運動が神経機能に与える影響に関する研究

加齢における身体機能低下を予防するためには、運動することがよいとされていますが、運動の効果について、筋や神経に着目し研究を進めています。

4. 身体運動におけるバイオメカニクス

人の動きを捉えるために、三次元動作解析装置や表面筋電計、加速度計などの計測装置により、運動機能や障害の定量的評価を目指しています。

講座テーマ紹介

変形性膝関節症の発症と運動療法の効果について、研究室で実施してきた基礎研究や身体運動におけるバイオメカニクス研究における研究、臨床研究の知見を踏まえた講座

アピールポイントなど

人や動物を対象として基礎研究から得られる結果をもとに、運動の身体への与える効果を研究しています。